

品種と技術、その後 . .

食味コンクール金賞続出の水稻品種「にこまる」

【「にこまる」の現在】

「にこまる」は2005年に長崎県で奨励品種に採用され、普及が始まりました。その後、大分県、静岡県、愛媛県、高知県で奨励品種や認定品種に採用され、2014年の普及面積は10,000haに近いと推定されます。表1の上段が品種登録時の特性データにあたり、ヒノヒカリに比べ優れた玄米品質を持ち、やや多収です。食味はヒノヒカリと差がありません。表1の下段が最近5ヶ年のデータで、「にこまる」の出穂期は登録時に比べやや遅くなっています。一方、近年頻発する高温年の影響もあり、登熟期間が短縮されています。そのため、最近の収量は登録前に及びません。しかし、ヒノヒカリの方が高温登熟の影響がよりシビアなため、「にこまる」の収量はヒノヒカリ比117%とかなりの多収になっています。



写真 福岡県みやま市で販売されている金賞受賞の「にこまる」

【極良食味の証明】

米・食味分析鑑定コンクールは個人農家が出品する日本最大規模のコンクールです。2014年で16回目になりましたが、出品数は4,000を超えています。栽培実績の長いコシヒカリが金賞を席卷する中、2010年に高知県四万十町の「にこまる」が品種登録後わずか数年で金賞を獲得しました。以降、金賞あるいは特別優秀賞の受賞数は着実に増えています（写真、表2）。2014年の都道府県部門の両賞の受賞数は15で、関東から九州に及びます。「にこまる」の栽培可能な都道府県の半数近くになります。このコンクールの1次審査は食味計による判定のため、「にこまる」のタンパク質含有率の比較的低い特性が有利に働いた可能性はあるものの、「にこまる」の極良食味性は揺るがないものと思われます。高知県四万十町の他、高知県本山町、福岡県みやま市などで金賞を受賞した生産者を取りまとめている米穀店や団体によりプレミアムな「にこまる」産地が形成され、高値で取引されています。

【「にこまる」の改良】

「にこまる」の葉いもち圃場抵抗性は表1にあるようにヒノヒカリと同程度で強くなく、また他の病虫害に対する耐性も不十分です。そこで、DNAマーカー選抜を活用して九州で問題になっているトビイロウンカや縞葉枯病に対する抵抗性遺伝子の導入を図っています。さらに、高温登熟耐性のさらなる強化や、低コスト生産を想定した直播栽培条件下での耐倒伏性の付与などを視野に入れた育種を進めています。

【水田作研究領域 田村 克徳】

表1 にこまるの生産力検定試験(育成地)

品種・系統名	年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)	精玄米重 (kg/a)	標準比率 (%)	屑米歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	品質 (1-9)	アミロース 含有率 (%)	タンパク質 含有率 (%)	食味 総合値 (コシカ:0)	倒伏 (0-5)	葉いもち (0-10)
にこまる	2000-2004	8.27	10.17	82	20.1	354	64.7	103	2.8	23.1	4.0	19.1	5.7	0.02	0.7	6.2
	2010-2014	8.29	10.11	84	20.2	321	57.3	117	4.0	23.1	4.6	18.3	6.0	0.08	0.5	5.3
ヒノヒカリ	2000-2004	8.26	10.16	84	20.1	375	62.6	100	2.4	22.5	5.4	17.7	6.6	-0.05	1.0	5.8
	2010-2014	8.24	10.05	80	19.1	366	49.1	100	4.4	22.6	6.4	17.1	6.5	0.00	0.2	6.5

注) 品質:1(上上)~9(下下)、食味総合値:コシヒカリより+は良、-は劣る、倒伏:0(無)~5(甚)、葉いもち:0(無)~10(全茎葉枯死)

表2 米・食味分析鑑定コンクールにおける「にこまる」の受賞実績

	全出品数	総数		うち国際部門		うち都道府県代表	
		金賞	特別優秀賞	金賞	特別優秀賞	金賞	特別優秀賞
第16回(2014年)	4369	7	13	0	0	5	10
第15回(2013年)	3953	7	11	1	0	5	5
第14回(2012年)	3915	8	7	1	1	2	5
第13回(2011年)	2952	4	3	1	0	1	2
第12回(2010年)	2844	3	2	1	1	1	1